

獺すなごり章(一帖第三通)

まず、当流とうりゅうの安心あんじんのおもむきは、あながちにわがこころのわらき  
をも。また、妄念もうねん妄執もうじゅうのこころのおこるをも。とどめよというにもあ  
らず、ただあきないをもし奉公ほうこうをもせよ。獺すなごりをもせよ。かか  
るあさましき罪業ざいごうにのみ。朝夕ちようせきまどいぬるわれらごとき。のいたずら  
ものを、たすけんと誓ちかいします。弥陀みだに如来よらいの本願ほんがんにてまします  
ぞとふかく信しんじて、一心いっしんにふたごころなく。弥陀みだに一仏いちぶつの悲願ひがんにす  
がりて、たすけましますとおもうこころの。一念いちねんの信しんまことなれば、  
かならず如来にょらいの御おんたすけにあずかるものなり。このうえには。なに  
とこころえて念仏ねんぶつ申もうすべきぞなれば、往生おうじょうはいまの信力しんりきによりて、  
御おんたすけありつるかたじけなき御恩ごおん報謝ほうしゃのために、わがいのちあ

らんかぎりは・報謝ほうしゃのためとおもいて・念仏申すべきなり、これを  
当流とうりゅうの安心あんじん決定けつじょうしたる・信心しんじんの行者ぎょうじやとは申すべきなり、

あなかしこ あなかしこ

(不読)

文明三年十二月十八日

概すなごり章の大意

浄土真宗の信心についていえば、ことさらに自分の悪い心を止  
めよとも、また迷いのとらわれの心が起るのを止めよともいうわけ  
ではありません。どのような仕事をして暮らしを立てていようと

も、そのような日暮らしをしている取り柄のない私たちを救おうとお誓いになった阿弥陀如来の本願であると深く信じて、一心にみ仏の本願におまかせする信心がまことなら、かならず阿弥陀如来のお救いにあずかることができます。

そのうえで、どのように思って念仏するのかといえば、浄土に往生するのは信心のはたらきによるのだから、その信心をめぐまれば、ご恩を報じるためと思って、命のあるかぎり念仏すべきです。このような人を、浄土真宗の信心を決定した人というのです。